

開講年度	令和6年度	開講課程	博士課程
授業名	神経再生・発生・疾患学特論		
開講キャンパス	伏虎	教室	基礎教育棟3階講義室3 中講義室303
科目区分	専門科目	配当年次	1年次
必修・選択の別	選択	単位	1単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	神経発達、神経変性疾患、末梢神経障害、治療薬、神経再生医療、脳発生		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	教授 三宅 歩、 <u>教授 今井哲司</u> 、教授 那波宏之	
	薬		
授業の概要	中枢神経系や末梢神経系を構成する神経細胞やグリア細胞の発生、発達や役割について紹介する。また、神経変性疾患、発達障害や末梢神経障害の病態や発症機序について概説する。さらに、当該疾患に対する主要な治療薬の作用機序、副作用について説明するとともに、再生医療の可能性と課題について概説する。		
到達目標	<input type="checkbox"/> 神経変性疾患や末梢神経障害研究の現状と、臨床におけるアンメットニーズを理解する。 <input type="checkbox"/> 神経再生医療の可能性とそれらの課題について修得する。		
授業計画	<p>1. 2. 7. 8. 脳の発生、精神・神経疾患ほか (三宅 歩 / 4回)  【11/21 6限・7限】 【12/12 6限・7限】  脳の発生と分泌タンパク質に関する研究、心の脳・神経科学的基盤について概説する。</p> <p>3. 末梢神経系を構成する細胞群の発生とそれらの機能的役割 (今井哲司 / 1回)  【11/28 6限】  末梢神経を構成する神経繊維、髄鞘細胞、化学受容体の発生や役割について紹介する。</p> <p>4. 末梢神経障害の病態と治療法 (今井哲司 / 1回) 【11/28 7限】  末梢神経障害の病態や研究の最前線、治療法の現状を紹介し、アンメットメディカルニーズについて説明する。神経再生による治療戦略とその課題について説明する。</p> <p>5. 神経栄養因子・サイトカイン学 (那波宏之 / 1回) 【12/5 6限】  6. 神経炎症学 (那波宏之 / 1回) 【12/5 7限】  人の生後脳発達過程を理解し、関連する脳疾患とその病態を紹介する。</p>		
授業の方法・形態	講義を中心とする。 遠隔会議システムを利用した同時配信を行う。		
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。		
成績評価の基準	授業への取組20% (発問に対する応答や発言内容、主体的・積極的な受講姿勢) 及びレポート80%によりS (90点以上)、A (80~89点)、B (70~79点)、C (60~69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。		
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。		
オフィスアワー (学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。		

教科書・参考書

【教科書】 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。  
【参考書】 特に指定しない。